【カテゴリー I】

高齢者施設利用者の生活環境ストレス認知尺度の開発
THE DEVELOPMENT OF A SCALE OF COGNITION OF THE STRESS OF LIVING ENVIRONMENTS IN THE ELDERLY AT INSTITUTIONS

入内島一雄

Kazutaka IRIUCHIJIMA

This study was designed to develop "A scale of cognition of the stress of living environments at institutions" using the elderly at health institutions for the aged subjects. Investigations were made at 9 of 37 institutions in Gunma Prefecture. As a result of statistical analysis, the status of cognition of the stress in the elderly at the aforementioned institutions was supposed to be a factor structure model (validity of contents), which consisted of the linear and the quadratic factors. The linear factor included "the stress factor of institution environment" (5 items), "the stress factor of freedom of living" (7 items), and "the stress factor of health administration" (2 items), and the quadratic factor included "cognition of the stress of the stress of living environments at institutions". It was also clarified that fit to the data (validity of constructs), the validity related to the standard, and reliability coefficient meets adequately the statistical tolerance level. From these results, the above-described scale was estimated to be beneficial to the future preparation of bases of health institutions for the aged in an aging society.

Key Word: elderly, stress, environment, 高齢者, ストレス, 環境

I 目的
従来、介護を必要とする虚弱あるいは寝たきり等の高齢者 1-2)の施設利用サービス 3)は、特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、老人保健施設等を拠点に展開されてきた。そのうちの老人保健施設は、急性期の治療が主な老人の家庭復帰への橋渡しとしてのサービス機能を果たす機関として、1986 年の老人保健法改正 (施設は 88 年 4 月 1 日から施行) により制度化され、10 年余があたることである 3)。その施設運営において、①老人の心身諸機能の改善、生活の質 QOL の向上を目指すこと、②入所機能と在宅支援機能を有する施設であること、③看護、介護ケア、家庭復帰のためのリハビリテーション・サービスを提供する専門職員が配置されていることなどが、厚生省「老人保健施設の設備及び人員並びに運営に関する基準」4)に示されている。ゴールドプランは、平成 11 年度末 (1999 年) までに 28 万床を目標としているが、その後も継続して増加することが見込まれている 3)。上述したように、老人保健施設は入所機能と在宅支援機能が幅広く付与され、それは病院でも福祉施設でもない「中間施設」として位置づけられるが、利用者にとってはあくまでも「生活の場」である。従って、それは利用者にとってストレスフルな環境であってはならないし、また生活環境が個々の QOL に反映されなければならない。しかし、老人保健施設は既設されて間もなく、その環境整備に関する設備基準はあるものの、基本にどのような生活環境が利用者にとって望ましいかを検討した研究 5-9)はほとんど見当たらない。

本研究は、老人保健施設利用者の QOL 向上に関連する環境整備についての指針を得ることをねらいとして、環境建築学 10)の立場から、利用者がその生活環境を物理的環境と生活する上での配慮に関してどのように認識 (評価) しているかを把握し、その程度を測定するための尺度の開発を目的とした。

II 方法
調査施設は群馬県内 37 の老人保健施設のうち調査協力が得られた 9 施設とし、また調査対象は、厚生省研設の「痴呆スクリーニング基準」11)に依頼し、施設職員があらかじめ非該当と判断した 147 名とした。

調査内容は、基本属性（性、年齢、施設利用期間）、基本的 ADL、生活環境におけるストレス認知（「設備・空間の利便性」＜「居室環境」と「共用環境」（「安全」、「衛生」等を含む）＞、「選択の自由」、「プライバシーの保障」、ならびに「住んでいる場所（部屋の快適さ）」）と精神的健康状態とした。

これら調査内容のうち、基本属性と基本的 ADL に関するデータ収集は施設職員に依頼し、基本的 ADL は「パーセル・インデックス」12)を用いて評価した。生活環境の認知に関する資料は、著者のひとりが構造化された面接調査をすべてを収集した。その内容は、
著者らの先行研究と従来13）の研究業績5-9）を参考に、「日常環境」に関する3項目、「共用環境」に関する11項目、「プライバシー保護」に関する6項目で、さらに「選択の自由」に関する20項目の、計46項目で把握した（表1）。前記46項目の回答は、ストレス認知理論14-15）に従い、個人にネガティブな感情を誘発するものの害、リカート4件法（だれもいない」「時々そう思う」「しばしばそう思う」、「いつもそう思う」）をも測定した。なお、ストレス認知として、ラザールのストレス理論に基づき「ある出来事を自分と無関係とみるか、有益で肯定的なものとみるか、あるいはストレス的なものとみるかの評価（認知）」を意味し、またストレススケール的な状況は否定的な感情と快適感に大別される。そこでストレス反応を大きく影響すると想定されるネガティブな感情を引き起こす生活環境の評価を扱う。

基準関連妥当性の検討の目的で測定した「住んでいる場所（部屋）」に対する快適さは、調査対象者の生活習慣、健康状態、居住環境、生活環境の特性を反映して設定されたものである。表2は、心理的の特性を反映した応答を中心に、快適さを測定するための指標である。

以下に、前記46項目に関する分析を示す。項目ごとに、項目の選択理由と、項目の選択の妥当性を検討した。項目の選択理由は、個々の項目の適否を調査し、項目の選択の妥当性を検討した。

以下に、前記46項目に関する分析を示す。項目ごとに、項目の選択理由と、項目の選択の妥当性を検討した。項目の選択理由は、個々の項目の適否を調査し、項目の選択の妥当性を検討した。

以下に、前記46項目に関する分析を示す。項目ごとに、項目の選択理由と、項目の選択の妥当性を検討した。項目の選択理由は、個々の項目の適否を調査し、項目の選択の妥当性を検討した。
「選択の自由」においては 13 項目を投入した。得られた下位因子は 4 つであったが、そのうちの 2 つは所属項目がいずれも 1 項目から構成されていてからそれに所属する項目（「外出の機会が、自由に認められない」と「ゆっくりした気分で入浴させてももらえない」を除外し、またいずれの因子にも所属しなかった項目であった「テレビ、ラジオ、ビデオが自由に利用できない」を除外し、残りの 2 因子に所属する項目をみると、それらは第一因子に相当する。「部屋の環境では自由にコミュニケーション（電話、ファックス、手紙）できない」「新居、雑誌、図書が自由に利用できない」「部屋の選択が希望どおりできない」「お金を利用して管理できない」「私物を自由に持ち込める」という 5 項目が含まれ、それは「個人的なことに関わる選択の自由」と解釈できた。ただし「部屋の選択が希望どおりできない」はその概念からはかけ離れていると判断し除外した。また第二因子には「地域への行動に参加したい」「レクリエーション活動に自由に参加できない」「施設での行動に、家族や友人を参加させにくい」「自分のペースでゆっくりと食事が楽しめる」、「施設外の集まりに自由に参加できない」が含まれ、これらは「地域を含めの人々との関わりに関連した選択の自由」と解釈できた。しかし「自分のペースでゆっくりと食事が楽しめる」は、その概念として解釈することが困難なことから除外した。

「居室環境」に関しては 2 つの下位因子が抽出された。第一因子は「部屋の中の内装（床、天井、壁、カーテン等）のいろどりがやるせない」「ベッドの大きさや形状が自分に合っておらず、寝心地が悪い」「私物を収納する場所が自分に合って十分な大きさをとらない」で構成され、これは「室内の個別性」と解釈できた。また第二因子には「すすぎ風が入ってきて不快勉」「室内の換気状況度が快適に保てていない」が所属し、「これは「換気」と解釈できた。なお、「部屋への風通しが悪い」は、ふたつの因子にほぼ等価な因子負荷量を示していたことから除外した。

最後の「共用環境」に関しては、3 つの下位因子が抽出された。第一因子は、「地震に関する安全性に欠けている」「火災に対する安全性に欠けている」「お風呂場の安全性が工夫が足りない」の 3 項目から構成され、「安全性」に関連した因子と解釈できた。第二因子には「お風呂場が清潔でないのが心配」、「トイレが臭うなど清潔さに欠けている」が所属し、これは「衛生」に関連した因子と解釈できた。第三因子は「車椅子等による移動がしにくい設備」に特化している。「ディルームや靴下室が広さを欠いている」「空気の流动性が悪く」、「障害を考慮したトイレの設備・改善が不十分である」からなり、「障害への配慮」と解釈できた。また「洗濯物が自分で手伝いが ermögしい場所がない」はいずれの因子にも属さないことを除外した。

以上の結果、当該要因によって特定の下位概念（因子）に所属すると認識された 24 項目（表 2）を、「施設生活環境ストレス認知尺度」開発に必要な項目として選定した。
信頼性係数は各因子に追加する分布を見ると、「施設生活環境ストレス認知尺度」の平均が3.7（標準偏差2.83）で、変点は0.997、半分は1.333であった。

5. 「施設生活環境ストレス認知尺度」の基準関連妥当性の検討
施設生活環境ストレス認知に関する基準尺度（「施設生活環境ストレス認知尺度」の素点合計）と「住んでいる場所（部屋の快さ）」との関連性は、ピアソンの相関係数で-0.274（p<0.01）となり、これも因子間別に「設備環境ストレス因子」は-0.267（p<0.01）、「生活自由度ストレス因子」は-0.053、「衛生管理ストレス因子」は-0.327（p<0.01）となっていた。また精神的健康度（CES-D得点）と「施設生活環境ストレス認知」の総合得点との間には統計学的関連性が認められなかったが、「設備環境ストレス因子」とは0.185（p<0.01）の相関を示した。なお、前記ストレス認知に関する総合的な基準の合計点、ならびに因子別の基準の合計点は年齢などの個人差も考慮に入れると、さらに平均得点には統計学的にみて差は認められなかった。

本研究は、老人保健施設のQOL向上的ための環境構築に関する指針を得ることをねらいとして、施設利用者が生活環境から受けていないストレス14-15）を、物理的環境と生活する上で主に構築を基礎から把握し、その程度を測定するための尺度開発を目的として行った。構成概念を基盤とする尺度開発に当たっては、概念規定に基づき調査の設定、調査、開発を企図した尺度の内容の妥当性を因子構造モデルとして明確にし、またその因子構造モデルに共分散構造分析を適用させ、構成概念妥当性を検証していく必要がある21）。また開発された尺度の意義を基準関連妥当性の検討を基盤に明らかにする必要もある21）。さらにこれら妥当性の検討に加え、信頼性に関する検討も必要である21）。本研究は、それら尺度開発に必要な一連の作業を、老人保健施設で発見する利用者のストレスに視点をあて、それを生活環境との関連で抽出することを試みた。なお、ストレス認知は本人の確かな評価を前提にすることから、本研究においては明らかに発症症状が観察される高齢者であるかはじめ調査対象から除外した。また最終的な尺度の開発に必要な項目の選択には、識別性と内部一貫性の検討を繰り返し検討したが、これは尺度開発にとって適切であったと推察される。

その結果、「設備環境ストレス因子」、「生活自由度ストレス因子」、「衛生管理ストレス因子」を一次因子を、「施設生活環境ストレス認知尺度」を二次因子とする「施設生活環境ストレス認知尺度」を開発することができた。その変動数は、「設備環境ストレス因子」が5項目、「生活自由度ストレス因子」が7項目、「衛生管理ストレス因子」が2項目の計14項目で構成され、因子構造は二次因子モデルとなっている。この指標された因子構造モデルのデータへの適合度はGFIが0.905、RMSEAが0.045（PCLOSE=0.585）で、AGFIは0.865であった。本研究での先行研究の結果13）を基礎に、あらかじめ「設備・空間の利便性」、「選択の自由」、「プライバシーの保 護」に関連する6項目をブールし、その識別性と内部一貫性を慎重に検討することで必要な項目を除外し、前記因子構造モデルを仮定した。これら一連の解析は内容妥当性の検討に相当するが、
仮定された因子構造モデルのデータへの適合度が統計学的な許容水準にあたったことは、「施設生活環境ストレス認知尺度」の構成概念妥当性を支持するものである。また、「施設生活環境ストレス認知尺度」の二次因子構造モデルが検証されたことは、観測変数が一次因子においてそれぞれ加算性が保証されただけでなく、二次因子として想定した「施設生活環境ストレス」として、観測変数をすべて加算できることを意味する。ちなみに本研究で開発した「施設生活環境ストレス認知尺度」の信頼係数は、4 項目全体で 0.743、「設備生活ストレス因子」は 0.663、「生活自由度ストレス因子」は 0.698。「設備管理ストレス因子」は 0.770 となっており、実用的な使用に十分耐えられるものと推察された。

なお、著者らの先行研究においては、すでに施設生活におけるストレス認知の要因として 3 つの観点（選択の自由「設備の利便性」「生活空間の配慮」）を主成分分析により抽出できていた。しかし、それら要因が相互に関連性があるか、換言すると、相互に関連性を持ちながらも独立した関係にあるのか（斜交因子モデル）を、あるいは完全に相互関係としての生活環境の認知を統合されるのか（二次因子モデル）、さらにはその 3 つの側面が特定の概念に下位概念として有する概念なのか等については、対象群の関係から検討できなかった。本研究の結果はその問題に対しての回答を与えるものであり、今後、施設利用高齢者の QOL を考える上で大きな役割を果たすものと期待される。この点については、以下に述べる基準関連妥当性の検討によって裏付けられたと推察される。

本研究では、内面的妥当性ならびに構成概念妥当性の検討に加え、基準関連妥当性の検討として、前記尺度で得られた要素の合計点ならびに下位因子ごとの点数を基準値（住んでいる場所（部屋）、快適さ、精神的健康状態）との関連性を分析した。その結果、「住んでいる場所（部屋）、快適さ」に関しては、「施設生活環境ストレス認知」に関する合計得点ならびに「設備生活環境ストレス因子」および「衛生管理ストレス因子」の基準値との関係性が明らかにされた。また、精神的健康状態（CES-D得点）は、「設備生活環境ストレス因子」が関与していた。なお、「生活自由度ストレス因子」は「住んでいる場所（部屋）、快適さ」とは関連性が認められなかった。これら結果は、ストレス認知の程度をストレス反応に影響する 14−15 という因縁関係を、従来の研究ではほとんど捉えてこなかった高齢者の施設生活におけるストレス認知、とりわけ物理的環境から派生するネガティブなストレスが、ストレス反応として位置づけられる精神的健康状態に関与するという文脈において成立する、というかたちに実証したことを意味する。以上の結果は、「施設生活環境ストレス認知」を測定することの意義、すなわち基準関連妥当性を裏付けるものである。

ところで、従来の研究では、精神的健康状態が QOL に大きな影響を及ぼすということが指摘されている。また QOL に関してさまざまな要因が在宅の高齢者（28）を中心に検討が加えられてきた。他方、施設利用の高齢者の QOL を検討した業績（29−31）は多くはないが、施設に入所すること自体が利用者にとってストレスになり、それが利用者の QOL に影響を与えることが示唆されていた 32）。しかし施設生活環境の何がストレス反応を引き起こすのかを十分に検討した報告は見当たらなかった。その意味で、それを「施設生活環境ストレス認知」として把握できる尺度が開発できたことは、本研究の大きな成果と言えよう。

また著者らが「設備環境ストレス」と命名した因子の観測変数（調査項目）からも明らかのように、「火災に対する安全性に欠けている」「地震に関する安全性に欠けている」「室内の換気や温度が快適に保たれていない」「騒音を考慮したトイレの設備・改善が不十分である」「部屋への風通しが悪い」といったことに対する配慮は、建築学的には欠かせない重要な要素であり、さらに「お風呂場が不潔でいやな感じをする」と「トイレが臭うなど清潔さに欠けている」といった「衛生管理ストレス因子」に関しても、建築上十分な配慮が必要な内容となっている。臭気や換気に対する意識 33−35）は、すでに一般あるいは高齢住宅関連で指摘されていたものであるが、このことは当然老人保健施設の高齢者にも適用されなければならないものと言える。従来、施設評価は「特別養護老人ホーム・老人保健施設のサービス評価基準」(36) として作成されてきた。しかし、それはあくまで利用者に対する評価ではなく、管理者によって施設の自己評価にとどまるもので、それが利用者にどう反映するかについてはほとんど検討されてこなかった。特に、本研究で前述の内容が明らかになったことは、「もの」あるいは「うとわ」としての施設評価基準にとって、施設側の評価のみならず、利用者本人の評価を重視しなければならないことを示唆するものである。近年、急速な高齢化と家族間介護の下に伴い、特別養護老人ホームや老人保健施設を利用する高齢者が増大している 3）を勘案するならば、その概念の尺度化は大きな成果と推察される。

以上の結果において、高齢者の施設生活におけるストレス認知を、「設備環境ストレス因子」「生活自由度ストレス因子」「衛生管理ストレス因子」を下位概念として抽出できることが明らかにした。今後の課題としては、さらに「施設生活環境ストレス認知尺度」の因子不変性について検討を加えることが尺度の構成概念妥当性を確認する上で重要な課題であり、加えて、測定結果が QOL の向上に反映されことが重要な課題と言えよう。

表 1. 集計対象者の基本属性

| 性別 (n=126) | 男性 29 (23.0%) | 女性 97 (77.0%) |
| 年齢 (n=120) | 平均 81.8 歳、標準偏差 5.96 規範 69−95 |
| ADL 得点 (n=115) | 平均 67.8 標準偏差 25.2 規範 5−100 |
| 入所期間 (n=109) | 平均 8.7ヶ月 標準偏差 12.0 規範 1−84 |
表2 調査項目一覧（46項目）

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>A</th>
<th>B</th>
<th>C</th>
<th>D</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>家具の品揃え</td>
<td>109</td>
<td>110</td>
<td>111</td>
<td>112</td>
</tr>
<tr>
<td>壁の色</td>
<td>109</td>
<td>110</td>
<td>111</td>
<td>112</td>
</tr>
<tr>
<td>窓の大きさ</td>
<td>109</td>
<td>110</td>
<td>111</td>
<td>112</td>
</tr>
<tr>
<td>天井の高さ</td>
<td>109</td>
<td>110</td>
<td>111</td>
<td>112</td>
</tr>
<tr>
<td>家具の長さ</td>
<td>109</td>
<td>110</td>
<td>111</td>
<td>112</td>
</tr>
<tr>
<td>窓の形状</td>
<td>109</td>
<td>110</td>
<td>111</td>
<td>112</td>
</tr>
<tr>
<td>天井の色</td>
<td>109</td>
<td>110</td>
<td>111</td>
<td>112</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【プライバシーの保護】

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>A</th>
<th>B</th>
<th>C</th>
<th>D</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1. 入浴時のプライバシー（内側を他人に見られる）が、保護されている</td>
<td>103</td>
<td>104</td>
<td>105</td>
<td>106</td>
</tr>
<tr>
<td>2. 排泄時のプライバシー（他人に見られる）に、配慮が足りない</td>
<td>95</td>
<td>96</td>
<td>97</td>
<td>98</td>
</tr>
<tr>
<td>3. ひとりで落ち着いた気持ちになるような場所がどこにもない</td>
<td>81</td>
<td>82</td>
<td>83</td>
<td>84</td>
</tr>
<tr>
<td>4. 家族や友人と落ち着いて会える場所（空間）が少ない</td>
<td>76</td>
<td>77</td>
<td>78</td>
<td>79</td>
</tr>
<tr>
<td>5. いつも誰かに見られてい、一人でゆっくりできる時間が持たれない</td>
<td>84</td>
<td>85</td>
<td>86</td>
<td>87</td>
</tr>
<tr>
<td>6. ベッドのまわりに仕切（カーテンなど）がないなど、自分 の空間が少ない</td>
<td>88</td>
<td>89</td>
<td>90</td>
<td>91</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【選択の自由】

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>A</th>
<th>B</th>
<th>C</th>
<th>D</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1. 酒やたばこなどの嗜好品の制限が多い</td>
<td>118</td>
<td>119</td>
<td>120</td>
<td>121</td>
</tr>
<tr>
<td>2. お孫さんに自分の希望がかなえられない</td>
<td>70</td>
<td>71</td>
<td>72</td>
<td>73</td>
</tr>
<tr>
<td>3. 体の具合が悪いときでも、食事内容の変更が希望に合った</td>
<td>93</td>
<td>94</td>
<td>95</td>
<td>96</td>
</tr>
<tr>
<td>4. お金で自由で管理できる</td>
<td>85</td>
<td>86</td>
<td>87</td>
<td>88</td>
</tr>
<tr>
<td>5. 境界内へ旅行に参加しにくい</td>
<td>68</td>
<td>69</td>
<td>70</td>
<td>71</td>
</tr>
<tr>
<td>6. テレビ、ラジオ、ビデオが自由に利用できる</td>
<td>48</td>
<td>49</td>
<td>50</td>
<td>51</td>
</tr>
<tr>
<td>7. 食事や服装が自分の好みで選択できる</td>
<td>73</td>
<td>74</td>
<td>75</td>
<td>76</td>
</tr>
<tr>
<td>8. 外出自由に電話（電話・ファックス・手紙）が自由に利用できる</td>
<td>58</td>
<td>59</td>
<td>60</td>
<td>61</td>
</tr>
<tr>
<td>9. 新聞、雑誌、図書が自由に利用できる</td>
<td>56</td>
<td>57</td>
<td>58</td>
<td>59</td>
</tr>
<tr>
<td>10. レクリエーション活動（クラブ活動等）への参加が自由に選択できる</td>
<td>71</td>
<td>72</td>
<td>73</td>
<td>74</td>
</tr>
<tr>
<td>11. 外出の機会が、自由に認められない</td>
<td>67</td>
<td>68</td>
<td>69</td>
<td>70</td>
</tr>
<tr>
<td>12. 自分のペースでゆっくりと食事に楽しめない</td>
<td>68</td>
<td>69</td>
<td>70</td>
<td>71</td>
</tr>
<tr>
<td>13. やっとしたら訪れた気分で入浴してもとても離れ</td>
<td>57</td>
<td>58</td>
<td>59</td>
<td>60</td>
</tr>
<tr>
<td>14. 部屋の選択が希望どおりでない</td>
<td>92</td>
<td>93</td>
<td>94</td>
<td>95</td>
</tr>
<tr>
<td>15. 入浴日や入浴時間に制限が多い</td>
<td>104</td>
<td>105</td>
<td>106</td>
<td>107</td>
</tr>
<tr>
<td>16. 施設での行事、家族や友人と参加させてくれない</td>
<td>74</td>
<td>75</td>
<td>76</td>
<td>77</td>
</tr>
<tr>
<td>17. 外食が自由に注文できない</td>
<td>89</td>
<td>90</td>
<td>91</td>
<td>92</td>
</tr>
<tr>
<td>18. 施設内での行事、強制的に参加させられる</td>
<td>110</td>
<td>111</td>
<td>112</td>
<td>113</td>
</tr>
<tr>
<td>19. 施設外の集まりに自由に参加できない</td>
<td>82</td>
<td>83</td>
<td>84</td>
<td>85</td>
</tr>
<tr>
<td>20. 私物を自由に持ち込むことができない</td>
<td>75</td>
<td>76</td>
<td>77</td>
<td>78</td>
</tr>
</tbody>
</table>
### 表3 選択された24項目（信頼係数：CITC）

<table>
<thead>
<tr>
<th>調査項目</th>
<th>CITC</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1. 火災に関する安全性に配慮が欠けている</td>
<td>0.4113</td>
</tr>
<tr>
<td>2. 地震に関する安全性に配慮が欠けている</td>
<td>0.2961</td>
</tr>
<tr>
<td>3. トイレが臭うなど清潔さに欠けている</td>
<td>0.3229</td>
</tr>
<tr>
<td>4. お風呂場が不快でいやな感じする</td>
<td>0.4532</td>
</tr>
<tr>
<td>5. すすぎ気になって不快</td>
<td>0.2815</td>
</tr>
<tr>
<td>6. 室内の換気や温度が快適に保たれていない</td>
<td>0.3775</td>
</tr>
<tr>
<td>7. 室の中の内装（床、天井、壁、カーテンなど）が自由によく</td>
<td>0.4035</td>
</tr>
<tr>
<td>8. 部屋への風通しが悪い</td>
<td>0.3337</td>
</tr>
<tr>
<td>9. 障害を考慮したトイレの整備・改造が不十分である</td>
<td>0.3537</td>
</tr>
<tr>
<td>10. 自分が収納する場所が自分にとって十分な大きさとなっている</td>
<td>0.2018</td>
</tr>
<tr>
<td>11. 車椅子等による移動がしにくい設計になっている</td>
<td>0.2459</td>
</tr>
<tr>
<td>12. 入浴時のプライバシー（裸体を他人に見られる）が、保護されている</td>
<td>0.2086</td>
</tr>
<tr>
<td>13. 排泄時のプライバシー（他人に見られる）に、配慮が足りない</td>
<td>0.2211</td>
</tr>
<tr>
<td>14. ひとりで落ちついた気持ちになるような場所がどこももない</td>
<td>0.3438</td>
</tr>
<tr>
<td>15. ベッドのまわりに仕切（カーテンなど）が自由で、自分の空間がない</td>
<td>0.3908</td>
</tr>
<tr>
<td>16. いつも誰かに見られていて、一人でゆったりで自由な時間が取れない</td>
<td>0.4298</td>
</tr>
<tr>
<td>17. お金自らで管理できない</td>
<td>0.3731</td>
</tr>
<tr>
<td>18. 新聞、雑誌、図書が自由に利用できない</td>
<td>0.3597</td>
</tr>
<tr>
<td>19. 地域への行事に参加しにくい</td>
<td>0.3489</td>
</tr>
<tr>
<td>20. 私物を自由に持ち込めない</td>
<td>0.3279</td>
</tr>
<tr>
<td>21. レクリエーション活動（クラブ活動等）への参加が自由に選択できない</td>
<td>0.3738</td>
</tr>
<tr>
<td>22. 施設での行事に、家族や友人を参加させにくい</td>
<td>0.4007</td>
</tr>
<tr>
<td>23. 施設の集まりに自由に参加できない</td>
<td>0.2925</td>
</tr>
<tr>
<td>24. 外部と自由に通信（電話・ファクシミリ・手紙）が自由で</td>
<td>0.2824</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 表4 選択された18項目でのパターン行列

<table>
<thead>
<tr>
<th>調査項目</th>
<th>因子負荷量</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1. 火災に関する安全性に配慮が欠けている</td>
<td>0.743</td>
</tr>
<tr>
<td>2. 地震に関する安全性に配慮が欠けている</td>
<td>0.572</td>
</tr>
<tr>
<td>5. すすぎ気になって不快</td>
<td>0.457</td>
</tr>
<tr>
<td>6. 室内の換気や温度が快適に保たれていない</td>
<td>0.409</td>
</tr>
<tr>
<td>8. 部屋への風通しが悪い</td>
<td>0.399</td>
</tr>
<tr>
<td>9. 自分の空間を自由に管理できる</td>
<td>0.333</td>
</tr>
<tr>
<td>16. いつも誰かに見られていて、一人でゆったりで自由な時間が取れない</td>
<td>0.753</td>
</tr>
<tr>
<td>17. お金自らで管理できない</td>
<td>0.733</td>
</tr>
<tr>
<td>18. 新聞、雑誌、図書が自由に利用できない</td>
<td>0.507</td>
</tr>
<tr>
<td>21. レクリエーション活動（クラブ活動等）への参加が自由に選択できない</td>
<td>0.323</td>
</tr>
<tr>
<td>22. 施設での行事に、家族や友人を参加させにくい</td>
<td>0.304</td>
</tr>
<tr>
<td>23. 施設の集まりに自由に参加できない</td>
<td>0.282</td>
</tr>
<tr>
<td>24. 外部と自由に通信（電話・ファクシミリ・手紙）が自由で</td>
<td>0.243</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 施設生活環境ストレス認知

![図1 施設生活環境ストレス認知尺度の因子構成モデル（標準化係数）](image-url)